

オリパラ便り



令和元年 10 月 28 日(月)
第 4 号

＜義肢装具士講演会 開催＞

10月24日(木)に全校生徒、保護者を対象に『義肢装具士講演会』を実施しました。当日は講師として公益財団法人鉄道弘済会・義肢装具サポートセンターの方々をお招きしました。義肢装具士とは、何らかの障害で失った手足の機能の代わりにする義肢、コルセットなどの治療を目的にした装具を製作します。義肢装具サポートセンターは義肢装具の製作から義肢装着訓練に至るまでの総合的なリハビリテーション施設です。また、利用者されている方の中にはパラリンピック(陸上競技・自転車競技・シッティングバレーなど)で活躍された方も多数いらっしゃいます。

打越先生のお話

「鉄道弘済会は、昔は毎日のように起きた鉄道事故によって手足を失った職員に対してのサポートをしてきましたが、現在は幅広く障害を持つ方々をサポートしています。義肢装具の制作と、入院リハビリを同時に行える、日本でも珍しい施設です。義足や義手の制作数は日本でトップクラスです。」代表生徒に、義足での歩行体験を行っていただきました。また、本物の義足や義手、義指などをご持参いただき、実物に触れさせていただきました。

福満先生のお話

義肢装具士の仕事内容や、義肢装具士になるためにはどうすればいいかお話をしてくださいました。「単に制作するだけでなく、利用者さんとコミュニケーションをとりながら一つ一つ手作りで制作しています。一般生活用のものは保険が適用されますが、スポーツ用は適用されず、義足一本、数百万円します。したがって、義手・義足を使用されている多くの方にとって、パラリンピックは身近なものではありません。」

堀川先生のお話

「5年前に膝の裏に悪性の腫瘍が見つかり、左足を大腿部から切断しました。その後、義肢装具センターにて義足を制作してもらい、必死のリハビリの末、自立歩行が可能となりました。現在はサポートセンターのスタッフとして勤務しています。」義足の装着方法や歩行・走行、靴の脱ぎ方など、わかりやすく実演してくださいました。義足を使用し、再び歩けるようになった時の喜びは今でも鮮明に残っているそうです。



来年にせまったパラリンピックの開催に向け、生徒にとってはなじみ少ない、障害のある方を陰で支える義肢装具士の仕事内容に触れることができました。障害者理解の心やボランティアマインドを学ぶことができた素晴らしい講演会となりました。講師の先生方、ありがとうございました。